

&lt;第66回調査&gt;

2014年11月25日

**【本調査の目的】**

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施していましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

**【調査実施期間】**

2014年11月11日(火)13:00～2014年11月18日(火)13:00  
※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

**【調査対象】**

(株)外為どっとコムの『外貨ネクストネオ』に口座を開設のお客様層

**【調査方法】**

(株)外為どっとコムの口座開設者にメールでアンケート回答URLを送付。  
今回の有効回答数は889件。  
※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

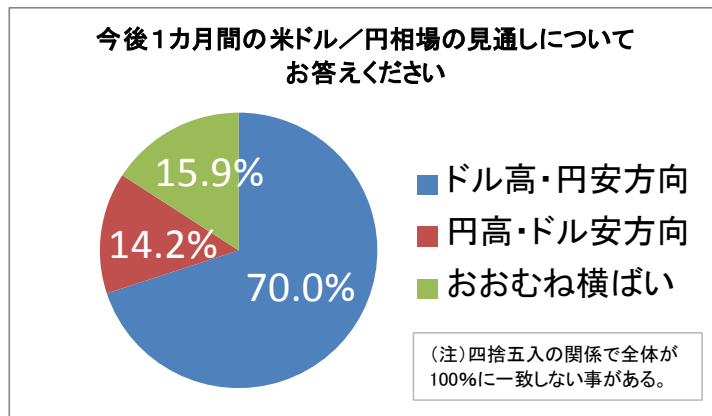
Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## 【第66回調査結果略報：日米金融政策格差を背景にドル強気見通し】

### 問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

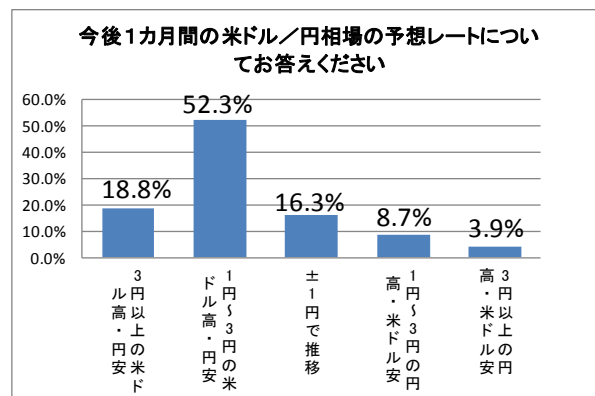
「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が70.0%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合は14.2%にとどまった。この結果「米ドル/円予想DI」は+55.8%ポイントとなり前回(+5.0%ポイント)からプラス幅が大幅に拡大、17カ月連続のドル強気予想となった。調査期間中の米ドル/円相場は、114円台から一時117円台に上伸して7年1カ月ぶりの高値を付けた。10月は米FRBが量的緩和を終了させた一方で、日銀はサプライズ緩和を発表するなど、金融政策の日米格差が鮮明となった事がドル高・円安を加速させた格好だ。こうした中でFX投資家は、米ドル強気・円弱気予想を強めたと見られる。

※過去の米ドル/円予想DIの推移はP8-9に掲載。



### 問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レート」については、「1円～3円の米ドル高・円安」と答えた割合が52.3%と最も多く、「3円以上の米ドル高・円安」が18.8%と続いた。さらに「±1円で推移」が16.3%、「1円～3円の円高・米ドル安」と「3円以上の円高・米ドル安」は、それぞれ8.7%、3.9%にとどまった。ヒストグラムの形状は米ドル高・円安側に傾いており、問1の結果と整合的である。それ以上に特徴的なのは「3円以上の米ドル高・円安」が18.8%に達した点だろう。米ドル/円予想DIが過去最大となる+57.8%ポイントを記録した昨年5月の第48回調査でも、その割合は14.5%どまりであった。調査期間中の相場水準に鑑みれば、年内に120円を見込むFX投資家も少なくないと言えるだろう。

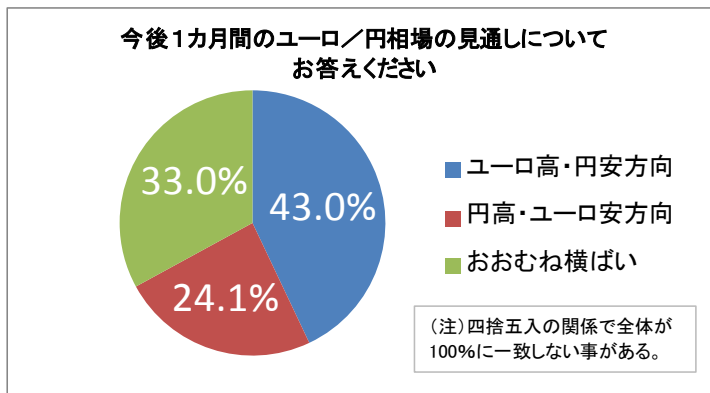


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

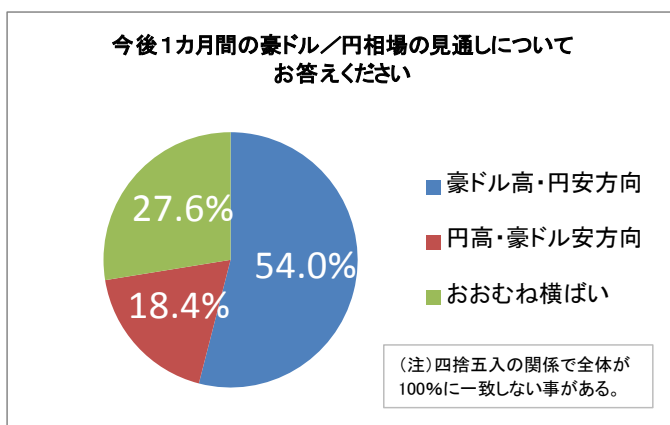
**問3: 今後1か月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください**

「今後1か月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が43.0%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が24.1%であった。この結果、「**ユーロ円予想DIは+18.9%ポイント**となり、8か月ぶりのプラスDI(ユーロ強気・円弱気予想)となった。調査期間中のユーロ/円は、142円台から146円台へと上値を伸ばし、一時6年1か月ぶりの高値となる146.528円を付けた。ECBの国債購入(量的緩和)観測によるユーロ安見通しは根強いものの、FX投資家の間では、それ以上に円安見通しが強いという事だろう。  
※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



**問4: 今後1か月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください**

「今後1か月間の豪ドル/円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が54.0%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は18.4%であった。この結果「**豪ドル/円予想DIは+35.6%ポイント**と前回の▼9.0%ポイントからプラス圏に切り返して大幅に上昇した。調査期間中の豪ドル/円相場は、98円台から102円台に上伸。一時、1年7か月ぶりの高値となる102.400円を付けるなど、ほぼ右肩上がりの上昇となった。10月31日の日銀による追加緩和を受けて、日経平均が年初来高値を更新しただけでなく、NYダウ平均が史上最高値を更新するなど、リスク選好ムードが高まった事が、豪ドル高・円安見通しを支援したと見られる。  
※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

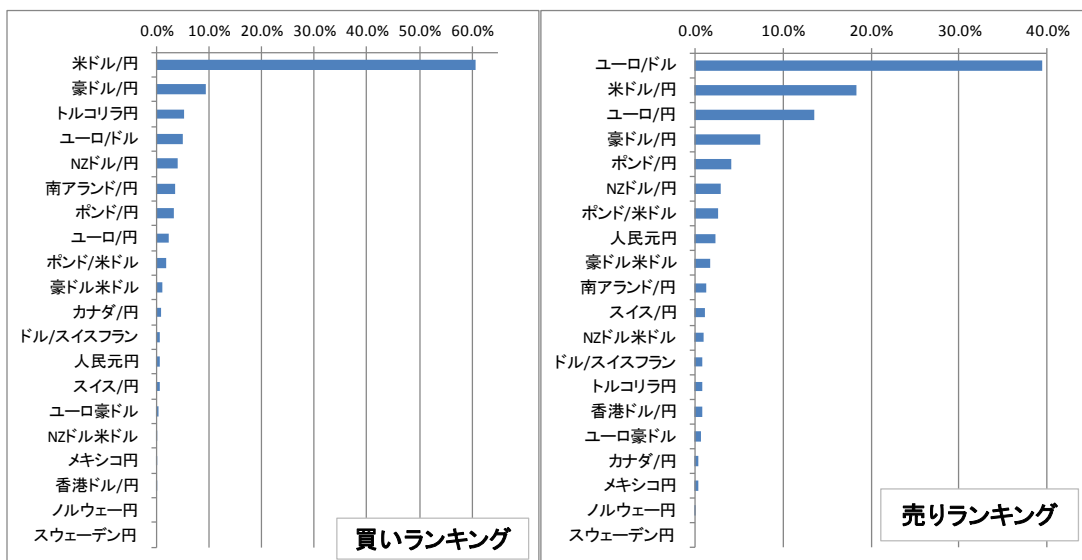


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

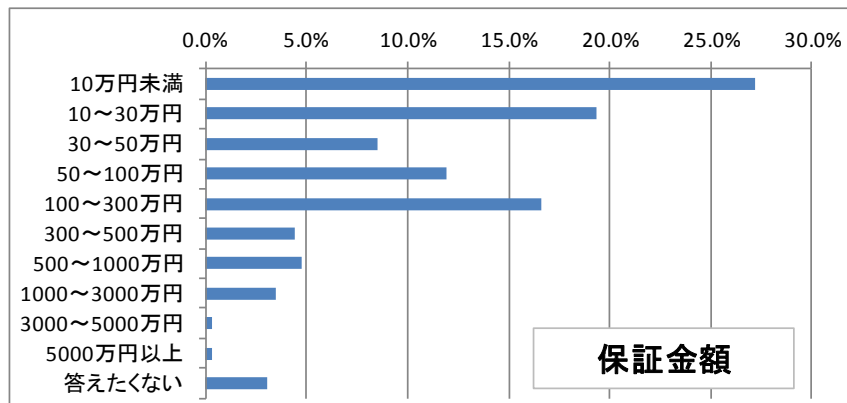
「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、米ドル/円(60.6%)が他を圧倒して1位となり、以下2位豪ドル/円(9.4%)、3位トルコリラ/円(5.3%)、4位ユーロ/ドル(5.1%)、となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位ユーロ/ドル(39.4%)、2位米ドル/円(18.3%)、3位ユーロ/円(13.6%)、4位豪ドル/円(7.4%)となった。「買い」で注目の通貨ペアについては、米ドル/円の1位は25カ月連続と最長記録を更新中で、2位の豪ドル/円も25カ月連続だ。そうした中、3位に食い込んだのが、11月10日から新たに外為どっとコムで取引が始まったトルコリラ/円だ。ノルウェークローネ/円やスウェーデンクローナ/円に票が入らなかったのとは好対照であり、高金利通貨の人気の高さを物語る事例と言えるだろう。また、「売り」で注目の通貨ペアについては、前回に比べて順位に変動はなかったが、1位のユーロ/ドルが回答割合(前回:29.4%)を増やした一方、2位以下の通貨ペアはいずれも回答割合が低下した点が特徴的だ。FX投資家の間で、ドルの先高感が強いのと同時に、円の先安感が強い事がここからも窺える。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

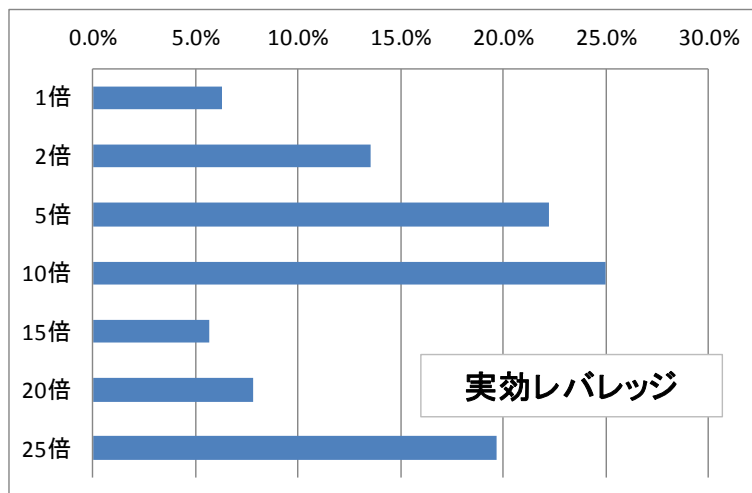
### 問6: FX取引の際の取引保証金の額についてお答えください(ひとつだけ)

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が27.2%と最も多く、以下「10～30万円(19.3%)」、「100～300万円(16.6%)」、「50～100万円(11.9%)」、「30～50万円(8.5%)」と続いた。順位については前回から変動はなかったが、「10万円未満」と「10～30万円」の割合が増加した一方、「30～50万円」と「50～100万円」の割合が低下した。調査期間中に大きく円安が進んだ相場環境から考えると、低額層の増加はやや不整合にも思える。ただ、外為どっとコムにおける新規取引口座の開設が増加基調にある点を考慮すると、投資家の裾野が広がった事による一時的な現象とも考えられる。今後の動向を注目する事としたい。



### 問7: 現在の[実効レバレッジ]で最も近いものを選択ください(ひとつだけ)

「現在の[実効レバレッジ]」について尋ねたところ、「10倍」と答えた割合が24.9%と最も多く、ほとんど差がなく「5倍」が22.2%と続き、以下「25倍」が19.7%、「2倍」が13.5%、「20倍」が7.8%となった。10倍以下の合算割合が前回の64.8%から66.9%に増加しており、今回の調査に回答を寄せた個人投資家の平均実効レバレッジも11.3倍と前回の11.7倍から低下している。前月に続き、大ぶりの値動きが繰り返られる相場展開の中で、レバレッジを抑える心理が自然に働いたものと思われる。

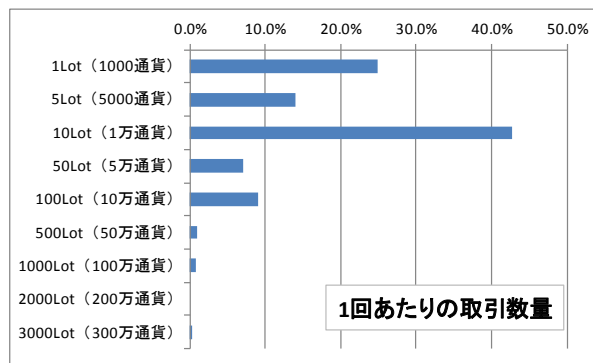


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

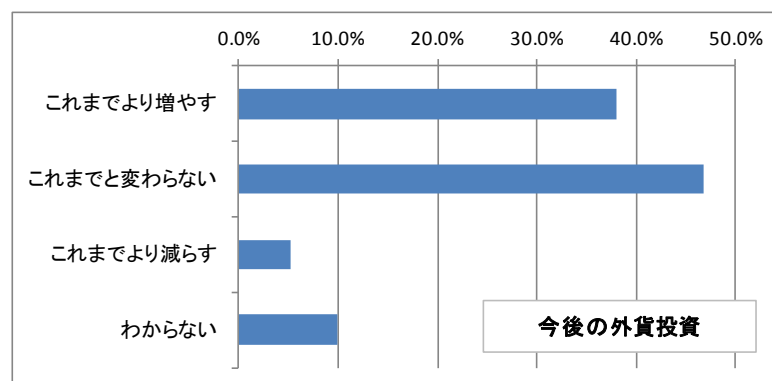
### 問8: 一度に注文する注文数量で最も近いものを選択ください。(ひとつだけ)

「一度に注文する注文数量で最も近いものを選択ください。(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「10Lot (1万通貨)」と答えた割合が42.7%と最も多く、以下「1Lot(1000通貨)」が25.0%、「5Lot(5000通貨)」が14.1%、「100Lot(10万通貨)」が9.1%、「50Lot(5万通貨)」が7.1%と続いた。10Lot(1万通貨)以下の合算割合が81.8%に達しており、前回の80.1%を上回った。問6で示された低保証金化と、問7で示された低レバレッジ化に、本問の低数量化を重ねると、個人FX投資家の取引が細っているような印象を受ける。ところが実際には売買高の増加基調は続いている事から、取引参加者の総数が増加した可能性が高い。この点からも投資家の裾野の広がりが感じられる。



### 問9: 今後の外貨投資(FX、外貨預金、外貨投信など)の方針について最も当てはまるものは何ですか？(ひとつだけ)

今月の特別質問項目として「今後の外貨投資(FX、外貨預金、外貨投信など)の方針について最も当てはまるものは何ですか？(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「これまでと変わらない」と答えた割合が46.8%と最も多く、「これまでより増やす」が38.0%、「わからない」が9.9%、「これまでより減らす」は5.3%にとどまった。同じ質問を、昨年5月の第48回調査(日銀が量的・質的緩和を導入した翌月)にした際に「これまでより増やす」と答えた割合は28.6%であった。今後も外貨投資が増加を続ける公算が大きい事を裏付ける調査結果と言えるだろう。なお、その理由を自由記述形式で尋ねたところ、「これまでより増やす」とした向きからは「インフレ対策として」などと資産防衛を目的とする回答が目立った一方、「中長期的なドル高・円安トレンドに入ったから」などとして、積極的に資産増加を狙うという回答も見られた。また、少数ではあるが「これまでより減らす」とした向きからは「日本株のパフォーマンスが高いため」として他商品への投資配分を増やす意向が示された。

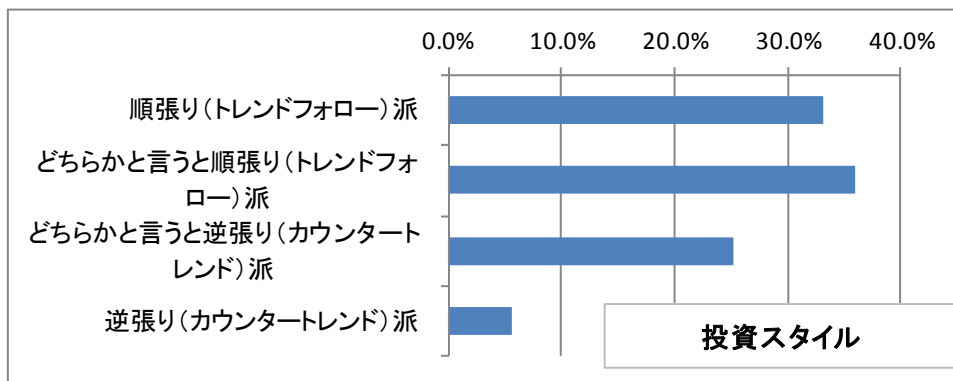


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

### 問10: あなたのFX投資のスタイルは、いわゆる「順張り」「逆張り」のどちらでしょうか(ひとつだけ)

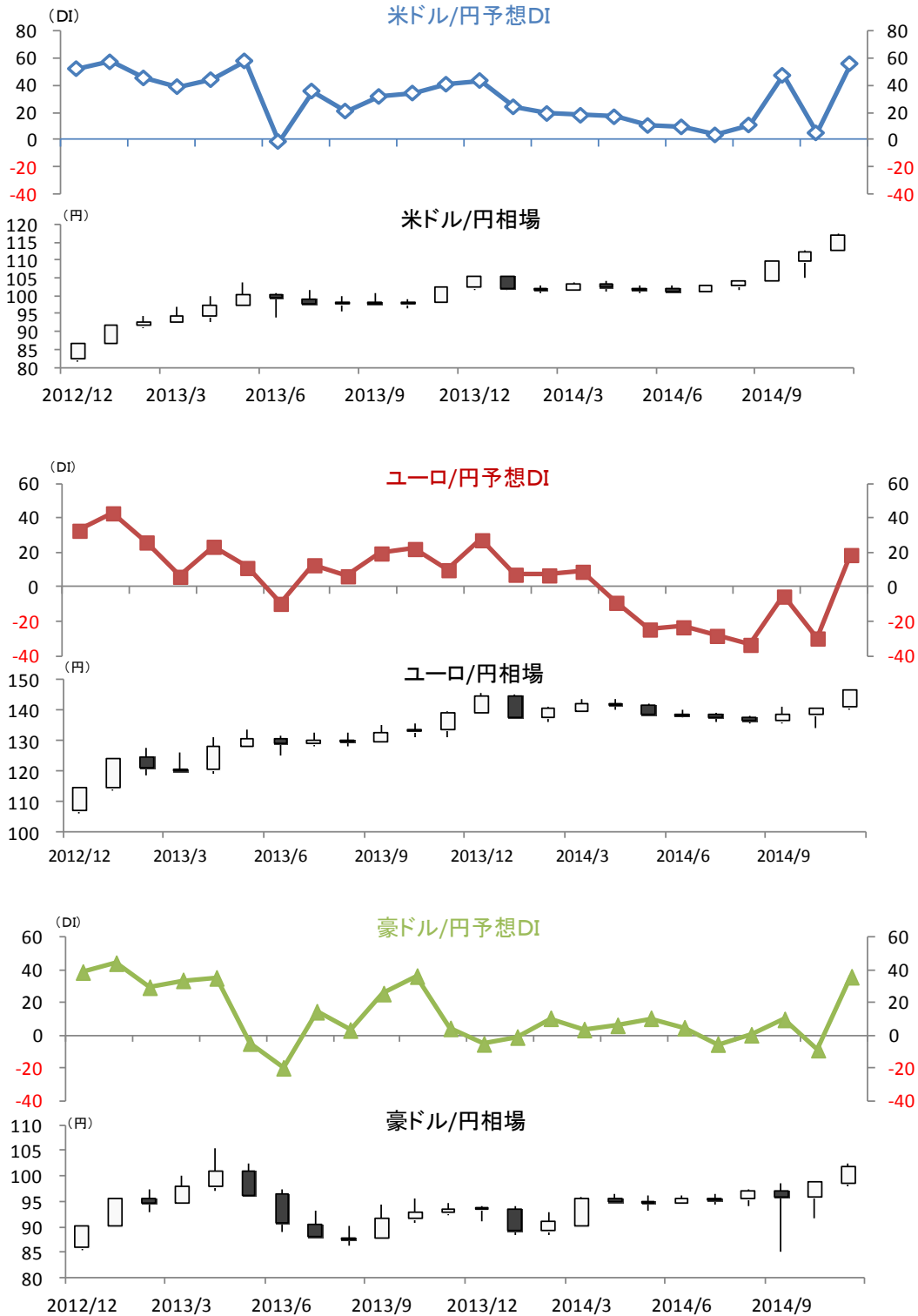
今月のもうひとつの特別質問項目として「あなたのFX投資のスタイルは、いわゆる「順張り」「逆張り」のどちらでしょうか(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「どちらかと言うと順張り(トレンドフォロー)派」が36.0%と最も多く、僅差で「順張り(トレンドフォロー)派」が33.2%で続き、「どちらかと言うと逆張り(カウンタートレンド)派」は25.2%、「逆張り(カウンタートレンド)派」は5.6%と少数だった。本邦個人投資家は逆張り投資を好むという巷の喧伝に反して、順張り派(合算割合で69.2%)を自認する個人投資家が圧倒的多数を占めた。昨年5月の第48回調査で同じ質問をした際もほぼ同様の結果であった。もっとも、昨年5月も今回も、強い円安地合いの中での調査であったため、個人投資家の回答が順張り側に偏った可能性がある。円相場に特段の方向感が見られない局面や円高局面でも同様の調査を実施する必要があるだろう。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承いたします。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com



## 【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第66回目となりました。調査開始から5年以上が経過し、データの蓄積が進んできました。今後については、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などのほか、中長期的な視点に基づいたFX投資家の投資スタイルの変化などの考察も進めて行きたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

## 【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル／円			ユーロ／円			豪ドル／円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2012年	12月	69.2	17.1	52.1	56.2	23.2	33.0	56.2	17.7	38.5
2013年	1月	70.7	13.6	57.1	61.4	18.3	43.1	60.3	16.4	43.9
	2月	60.0	14.7	45.3	50.1	23.9	26.2	48.6	19.4	29.2
	3月	55.5	16.6	38.9	37.2	30.9	6.3	53.0	19.6	33.4
	4月	61.4	17.4	44.0	49.5	25.8	23.7	56.1	21.2	34.9
	5月	70.5	12.7	57.8	37.3	25.9	11.4	27.7	32.7	-5.0
	6月	37.5	38.8	-1.3	31.4	40.8	-9.4	28.2	48.3	-20.1
	7月	52.3	16.6	35.7	37.3	24.3	13.0	38.4	24.2	14.2
	8月	43.7	22.7	21.0	34.1	27.5	6.6	34.8	31.8	3.0
	9月	49.8	18.1	31.7	40.8	21.0	19.8	46.5	21.2	25.3
	10月	54.8	20.6	34.2	40.8	18.4	22.4	53.1	17.1	36.0
	11月	53.2	12.5	40.7	34.8	24.7	10.1	31.8	27.8	4.0
	12月	59.5	16.1	43.4	48.2	20.7	27.5	27.3	32.8	-5.5
2014年	1月	47.2	23.1	24.1	37.2	29.7	7.5	28.1	29.4	-1.3
	2月	41.7	22.5	19.2	35.3	28.2	7.1	36.5	26.3	10.2
	3月	41.9	24.0	17.9	38.7	29.5	9.2	34.8	31.5	3.3
	4月	41.4	24.6	16.8	25.7	34.5	-8.8	35.4	29.5	5.9
	5月	33.9	23.5	10.4	19.7	44.0	-24.3	34.2	24.0	10.2
	6月	31.1	21.7	9.4	20.1	43.1	-23.0	30.4	26.0	4.4
	7月	27.9	24.4	3.5	17.8	45.8	-28.0	26.7	32.3	-5.6
	8月	32.6	21.8	10.8	14.7	47.9	-33.2	27.8	27.7	0.1
	9月	64.8	17.6	47.2	28.0	33.2	-5.2	36.0	26.5	9.5
	10月	39.4	34.4	5.0	18.3	47.8	-29.5	27.1	36.1	-9.0
	11月	70.0	14.2	55.8	43.0	24.1	18.9	54.0	18.4	35.6

(出所)外為どっとコム総合研究所

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com